

令和4年度学校自己評価

番号	項目	評価	
		スコア	等級
1-1	学校は、ホームページで情報を十分に公表できていますか	2.91	B
1-2	学校は、各種通信をとおして、十分な情報を提供していますか	2.94	B
1-3	学校は、各科に応じた特色ある教育を実施していますか	3.00	B
1-4	学校は、地域と連携した教育活動をしていますか	3.03	B
1-5	学校は、生徒の学力を伸ばす指導をしていますか	2.71	B
1-6	学校は、生徒の意欲を引き出す指導をしていますか	2.62	B
1-7	学校は、生徒理解に基づいた指導をしていますか	2.74	B
1-8	学校は、規律正しい生活を送る指導をしていますか	2.91	B
1-9	学校は、部活動が積極的に行われていますか	1.88	C
1-10	学校は、的確な進路指導をしていますか	2.56	B
1-11	学校では、校舎内外の美化が図られていますか	2.97	B
1-12	学校では、危機管理に対応した防災・防犯教育が行われていますか	2.56	B
2-1	職員は、服装や頭髪への指導ができていますか	3.03	B
2-2	職員は、あいさつ指導ができていますか	2.97	B
2-3	職員は、学習指導ができていますか	2.74	B
2-4	職員は、部活動指導ができていますか	1.91	C
2-5	職員は、学校が地域活動に取り組む指導ができていますか	2.50	B
2-6	職員は、通学マナーや交通ルールの指導ができていますか	2.47	B
2-7	職員は、生徒のボランティア活動参加への指導ができていますか	2.32	B
2-8	職員は、生徒がいじめやトラブルのない学校生活を送るための指導ができていますか	2.68	B
2-9	職員は、生徒が進路目標やその実現に向けての計画性を持てる指導ができていますか	2.85	B

A:3.3以上 B:2.3～3.3 C:1.3～2.3 D:1.3以下

令和4年度 各部の重点目標および成果と課題

Ⅰ 総務部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓「開拓者精神」に基づき、不断の挑戦や努力を尊重でき、地域社会を支え、貢献できる人材、地域の未来を切り開いていく人材を育成するという学校目標を実現するための基礎となる環境づくりを推進する。
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと貢献活動において専門学習の成果を生かした活動をおこない、地域の一員としての自覚ならびに、地域社会の活性化に貢献する力を身につける。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化を推進し、良好な学習環境づくりを推進するため、職員と生徒が清掃しやすい環境を整え、校内美化の徹底を図る。
人権意識等	
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ後援会、PTAなどの関連団体との協力・協働関係を深化させる。 ・学校説明会、オープンハイスクールの運営を工夫する。
特別支援教育	
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・各部学年と連携した学校運営をし、各行事においても職員全体が動きやすい体制を整える。 ・会議資料のペーパーレス化を推進する。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の推進と職員の防災意識の向上のため、防災訓練を年2回実施、併せて防災教育の工夫を図る。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの充実を図る。 ・学校だよりの定期的な発行や、行事ごとのHPやブログを更新する。
本校の将来像	<p>「開拓者精神」の理念のもと、基礎基本の力、自分で考える力、自ら行動する力を備え、地域を支え、これからの地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。</p>
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントや近隣学校との交流、ふるさと貢献活動への参加をとおり地域の一員として地域の活性化に貢献できる力・自己肯定感を育んだ。 ・HPやブログの更新や氷上校だよりや動画をとおして、生徒の活躍や取組・成果、学校ピアーアルなど積極的に情報発信できた。 ・通常の清掃はもとより各行事後の整美委員による清掃点検を実施することで、生徒及び職員の清掃意識の向上を目指すとともに、校内美化に励んだ。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大で中止されていた地域交流・地域行事への参加・ふるさと貢献活動の再開と充実。 ・ゴミの分別への理解を深め、「3R」(Reduce、Reuse、Recycle)に積極的に取り組む意識の高揚。 ・HPやブログ、氷上高だより等、情報発信のさらなる工夫と充実。

2 教務部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と主体的・共同的学習の積極的な導入を図り、生徒の適性・能力・進路に応じた教育を目指す。 ・「丹波学」を柱としてカリキュラムを運営する。
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を活用して、学習習慣の確立と義務教育段階の学習内容の定着を図る。 ・アクティブラーニング型授業を効果的に取り入れ、生徒が主体的で対話的な学習をし、学ぶ意欲を高める。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間中に必ず授業見学に行く。(最低2回) ・農業クラブの大会の大会で実績を出す。 ・専門性の向上に繋がる資格取得を推進する。
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹波学」を通じて、ふるさとを学び、郷土愛と自尊心を高める。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹波学」を通じて地域との連携を強める。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会を実施し、生徒について情報を共有し、必要に応じて合理的配慮を行う。 ・生徒会などと連携して氷上特別支援学校との交流や共同学習を推進する。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に委員会や研修会を開催し、情報の共有を図る。
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業への参加、研究授業の実施を促す。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹波学」の取り組みをHPに掲載したり、記者発表を行い、取材を依頼する。
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・商業科目の学習を通じて経営感覚を持った農業人を育てる。 ・「地域未来」→「起業経営」→「課題研究」の学習の流れにより、地域を支え未来を拓く生徒を育てる。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学で、学習習慣の確立ができた。 ・年3回の公開授業週間を実施し、教員の資質が上がった。 ・「丹波学」を通じて地域との連帯をはかり、新商品開発や丹波市の魅力を知ることができた <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間の充実による授業力の向上 ・定期的な学力向上研修会の開催 ・タブレット使った授業の展開 ・丹波学のHPなどでの発信

3 生徒指導部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現に向けて自立心や自律心を養い、基本的な生活習慣を身につけ、意欲を持って高校生活を送ることができるよう指導するとともに、自信と誇りを持ち、社会のために貢献できる人材を育成する ・学校安全教育の推進、教育相談の充実、健康教育・健康相談の充実、学校の環境衛生の維持に努め、心身共に健康な学校生活の確立を図る。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりを大切にし、生徒の的確な把握と内面的な理解に努め、心のサポートシステムの実践・研究を推進する。 ・教科指導・特別教育活動および関係機関やキャンパスカウンセラーと連携し、多元的、総合的に生徒を理解し、いじめの未然防止と解消に努める。 ・問題行動への計画的・継続的な指導と予防的な生徒指導に努める。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒト、モノ、時間を大切にする態度を育て、意欲を持って高校生活を送ることができるよう指導する。 ・基本的な生活習慣（挨拶・清掃）を確立させ、安全教育を推進する。 ・特別活動や学校行事に積極的に取り組み、活力ある高校生活を目指すとともに、自己の再発見や鍛錬の場となるように指導する。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域との連携を密にし、教職員の共通理解を図り指導の徹底を図る。学校からの配布物や保護者会などを通じて、本校の指導方針等についての理解や協力を求める。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒の学校生活について、関係機関と連携して指導を行う。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の共通理解を図り、協力体制を確立する。 ・地域行事への積極的な参加を推進する
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の気持ちは「受容・共感」的に受けとめ、許容できない言動に対しては「指導・要求」していくことで、生徒の生き方・在り方に積極的に関わる。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会で、すすんで「挨拶」を行うことのできる環境づくり。 ・氷上高校生としての誇りを養い、地域から信頼・期待される生徒を育てる。 ・部活動、生徒会活動等の教育活動を地域に積極的にアピールし、地域住民の認知度を高め、学校全体のイメージと信頼の向上に努める。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体で校則の見直しを行い、自己有用感を高める教育活動ができた。また、マスコミにも取り上げられ、本校の良いイメージを伝えることができた。 ・生活実態調査の数値で人の立場を考えて行動している、友人と好ましい人間関係を築けていると答えた生徒が8割以上になった。 ・挨拶ができていると9割の生徒が感じるようになった。 ・地域清掃など積極的に学校のイメージと信頼向上に努めることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの使用時間が長くなっており、歩きスマホなど危険な使用をする生徒がいる。スマホのモラル教育。 ・ボランティアや地域の行事への参加率の減少。

4 進路指導部

基本方針	・生徒一人ひとりが主体的に自らの在り方・生き方を考え、能力・適性に合った進路選択と自己実現ができるように、学校教育活動の各段階を通じて効果的な進路指導の取り組みを行う。
基礎学力	・全職員と協力して、教科指導はもちろんのこと学校行事、進路行事などを通じて進路意識を高める。また、教務、学年と協力し、基礎学力の向上に努める。
専門性	・計画的かつ効果的な進路 LHR を実施する。 ・インターンシップの指導を充実させ、社会的自立を促す。
自尊感情	・就職希望者のうち8割強の生徒が地元就職を希望することから、進路行事を通して地元企業について学ぶ機会を充実させる。
人権意識	・キャリアノートを活用し、勤労の義務と権利を学習する進路 LHR を実施する。
地域	・丹波市や地元企業と連携し、2年次でインターンシップ、3年次では就職フェアや応募前職場見学を実施し、地元企業を理解した就職指導を行う。
特別支援	・支援が必要な生徒の進路について、関係機関と連携して指導を行う。
職員の協働	・特に各学年と連携を図り、生徒の進路意識を高め、進路実現を図る。また、教務部と連携し、基礎学力の向上を図る。
資質能力	・研修会や大学等の学校説明会に積極的に参加し、情報を共有する。
本校の魅力	・HP を通して、進路指導の様子をタイムリーに発信する。
将来像	・地域に根差した専門高校として、将来地域で活躍できる人材を育て、地域と共に歩む学校を目指す。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年・部・科と連携し、インターンシップ等進路行事の充実を図れた。 ・県のキャリアノートを参考にし、キャリア教育におけたプランを作成できた。 ・ブログを通して進路指導の様子や成果を発信できた。 ・地域に根差した専門高校として地域で活躍できる人材を輩出できた。 (進学 52.9%、就職 45.9%、その他 1.2% 就職のうち地元就職 89.5%) ・業者による求人票のとりまとめにおけた取り組みを行うことができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路 LHR の実施時間が減少する中で、キャリア教育を充実。 ・基礎学力向上におけたさらなる取り組み。 ・進路決定後の学校生活の送り方について指導。 ・進路行事の精選とデジタル化が進む中での効果的な情報提供の検討。

5 実習総務部

基本方針	・特色ある様々な体験活動をとおして、開拓者精神の高揚を図り、地域および社会で活躍できる人材を育成する。
基礎学力	・学習の中で基礎的・基本的学力や技能を定着させるとともに主体的な学習などを積極的に導入し、課題解決力などの学力を養う。
専門性	・社会変化や産業の高度化等に対応するため、ICT化など専門性を高める取り組みを行うとともに、生徒の社会的自立に向けた専門的な学びを高める。
実習総務部 自尊感情	・専門学科における「体験的な学習」や「実物を用いた教育」によって生徒の自尊心や他者尊重の醸成を図る。さらに、地元丹波市への関わりの中で、ふるさとへの学びを深め、意識の醸成を図る。
人権意識	・各種の実習や学習活動の中で、他者と協働する姿勢を身に付けさせるとともに、人権意識を高める。
地域	・インターンシップや課題研究、就農講座等で地域との連絡を密にとるとともに、地元の関係機関や企業と連携した教育活動を推進する。
特別支援	・インクルーシブ教育についての理解を深めるとともに、配慮が必要な生徒などに応じた指導の充実を図る。
職員の協働	・教育活動における部内の共通理解を図り、協働体制を確立する。また、部員の心身の健康維持を図る。
資質能力	・研究授業や幅広い分野での研修を積極的に行い、部員の専門性や実践力の向上を図る。
本校の魅力	・農場での日々の出来事や専門高校の特色ある学習活動などを発信し、開かれた学校づくりをさらに進める。
将来像	・産業教育を通じて生徒の専門性を高めるとともに、地域社会を支え貢献できる人材を育成する。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本の習得や地域に役立てる人材育成について、他の教科と連携ができた。 ・「起業経営」での学びを、3年生で行う「課題研究」で展開し進めるという流れが構築できた。 ・地域、企業、学校を結びつけるといった学習の成果があった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BYODでは、圃場でのWiFi環境が無く、環境整備が急務。 ・スマート農業に対応したハードとソフトが必要

6 保健部

基本方針	・生徒自らが、健康の保持・増進に努め、心身共に健康で安全な学校生活が送れるよう実践的な能力と態度を育てる。
専門性等	・健康診断結果に基づき、生徒の自己管理能力を育成する。 ・生徒を取り巻く健康課題「飲酒・喫煙・薬物乱用・感染症・性教育・自殺予防等」について情報提供と、学習の機会を持つ。
自尊意識等	生徒が自分を大切にされていると思えるような声かけを心がけ、授業をはじめ、学校行事等で活躍することにより達成感が得られるような機会を増やす。
人権意識等	自分はもちろん、他人やかかわる人を大切にできるよう、人権教育の中で取り入れられる内容があれば、一緒に取り組む。
地域連携	・健康福祉事務所や市教委のSSW等と情報交換を行い、健康課題や学校保健に関する課題等について取組を続ける。
特別支援教育	・特別支援教育コーディネーターや担任、学年とのこまめな情報交換を実施し、個に必要な支援を行えるよう協力する。
職員の協働	・日々の生徒の様子をこまめに職員で情報交換をし、足並みのそろった対応をこころがける。各種校内研修を通して、生徒対応、救急処置、災害対応等を学び、職員で共に行う。
教職員の資質	・教職員の学校事故や災害等の対応について、意識の向上も含め、継続して取り組む。 ・心身の不調を訴える生徒については、保健室の環境整備を行い、各部署と情報共有をし、個々の状況によって適切な対応ができるよう努める。
本校の魅力	・ホームページを情報発信の場として有効に使えるよう検討。「保健だより」の発信、カウンセリングの日程、保健行事などのお知らせ、保健的行事のブログ掲載を行う。
本校の将来像	・卒業後も自分の健康について関心を持ち、健康で安全な生活が送れるような力を持てる生徒に育ててほしい。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他を尊重できる、卒業後も自分の心身の健康について関心をもてる内容で、情報提供と、学習の機会を持たた。 ・特別支援教育について担任、学年との情報交換、必要な支援等で継続して協力できた。 ・「保健だより」「カウンセリング通信」などホームページで情報発信した。 ・コロナ禍ではあるが、できる範囲での学校活動を実施するにあたり、感染防止等、啓発実践できた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学校行事等で活躍・達成感を得られる機会の増加。 ・生徒の様子を職員間でこまめに情報交換し、足並みのそろった対応が不足。 ・生徒対応、救急処置、災害対応等について、各職員が情報収集し、校内で統一した対応。 ・生徒に寄り添い、相談しやすい保健室づくり。

7 第1学年

基本方針	<p>「One For All, All For One」を学年目標に掲げ、以下3点を基本方針とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生としての自覚を持ち、学校生活を通じて社会性を身につけさせる。 ・生徒の能力や適性に合った目標を意識させ、意欲的に高校生活を送らせる。 ・グループ活動をする機会を増やし、コミュニケーション能力を向上させる。
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・所属する学科で学ぶ内容と社会とのつながりを意識し、進路における自己実現をLHR等で意識させる。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が企画する学年集会等を行い、生徒自身が主体的に、生徒同士で対話的に活動させ、コミュニケーション能力の向上を実感できるようにさせる。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・人権HR等を通して、自己理解と他者理解の重要性を認識させる。 ・学年行事においてクラスを超えたグループ活動を行い、協働する姿勢を身につけさせる。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会活動への参加や中学校訪問など、地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導研修会、個別支援計画、中高連携シート等を活用し、支援を要する生徒について、学年全体での支援体制を確立する。 ・保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、学年主任、学年付による学年会の場だけでなく、常日頃、学年全体での連携、情報共有を行い協働支援体制を確立する。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・学年団で情報の共有化をおこない、幅広い視点から学年運営に携わる。また、各種セミナーや研究大会に参加し、情報の共有化を図る。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信発行の定例化を図り、情報発信に努める。また、一方通行にならないよう、生徒の学年通信への参加機会を設ける。
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や学年行事の実施終了後に次年度以降に向けての振り返り（反省点・改善点など）作業を行う。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃陵祭等の行事で接客を行うなど社会性が身に着いた。 ・HR委員主催の学年レクを行い、生徒自身で主体的に活動することができた。 ・エゴグラム等で自分の性格を理解し日々の学校生活に活かすことができた。 ・学期ごとに生徒自身の振り返りを行い、反省から次の学期の目標をたてるPDCAサイクルによって、自身の成長を実感し、自尊心を高めることができた。 ・進路における自己実現のために、自己PR文の作成等を行い、これからの高校生活を充実させる意識をもたせることができた。 ・LHRで積極的にタブレットの利用を促し、情報を活用する意識が向上した。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年集会やLHR等でさらに相手を思いやる行動の大切さを説く。 ・学年通信でできるだけ多くの生徒が参加できる企画を検討する。 ・グループ活動の機会を増やし、コミュニケーション能力の向上を目指した行事を検討する。 ・タブレットを利用する機会を増やす。

8 第2学年

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生としての自覚を持ち、学校生活を通じて社会性を身につけさせる。 ・生徒の能力や適性に応じた目標を意識させ、意欲的に高校生活を送らせる。 ・氷上高生としてのプライドを持ち、自ら進路を切り開いていけるように支援する。
専門性の向上と社会的自立に向けたキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、クラスの教育活動において ICT を活用し、所属する学科での専門性を高める一助とする。 ・それぞれ所属する学科で学ぶことを基盤とし、進路選択・進路実現について意識を高めさせる。 ・インターンシップでの経験を通じて、将来の目標を明確にさせる。
自尊意識とふるさと意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行や体育大会、桃陵祭などの学校行事を充実したものにし、成功体験を積み重ねて自尊感情を高めさせる。 ・学年集会や学年通信などで生徒の活躍の場を設け、意識の醸成を図らせる。
人権意識の向上と主権者教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・人権HR等を通して、アサーティブなコミュニケーションを学び、お互いを尊重しながら意見を交わす人間関係を構築させる。 ・学年行事、学年集会、丹波学の授業などクラスを超えたグループ活動を行い、協働する姿勢を身につけさせる。
地域及び関係機関との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃やボランティアへの参加を促し、地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。 ・中学校への行事の案内や手紙での連絡などを学年全体での活動として設定し、連携強化に努める。
特別支援教育、共同と交流学习の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導研修会、個別支援計画、中高連携シート等を活用し、支援を要する生徒について、学年全体での支援体制を確立する。 ・保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。
職員の協働体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任、学年付きによる学年懇談の実施、SHRへの交代実施など、学年全体での連携、情報共有により、協働支援体制を確立する。 ・副担任へ学年クラスへの参加を促進し、学年団全体での意識共有を図る。
教職員の資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・他クラスへのSHR参加により、自身のクラス運営を見直す機会とし、自身の指導に取り入れられる体制を作る。 ・互いの研究授業への参加、授業参観を促進し、実践力の向上を図る。
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信発行の定例化（月1回）を図り、情報発信に努める。また、一方通行にならないよう、生徒の学年通信への参加機会を設ける。 ・中学校との連携、地域機関との連携強化により、本校の魅力を生徒からの直接の言葉で伝えられるようにする。
本校の将来像の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域を支え未来を拓く」には、地域の現状と課題を把握する力、そのための方法を考える力が必要となる。そうした力を身につけるために、目的を明確に提示し、目的を達成するためのPDCAサイクルを教育活動において繰り返し、実践していく。目標の数値化、(無理のない範囲での) 具体的、詳細な計画策定、計画通りの実行、定期的な評価・確認を進めていくことで、地域に必要な学校として認知されていくのではないだろうか。
成果と課題	<p>成果・学年団全体での協働支援体制が形になってきている。</p> <p>課題・早い段階での進路決定、その後のモチベーション維持。</p>

9 第3学年

基本方針	・高校生活の集大成として、何事も自ら考え積極的に行動し、60回生の学年目標「信頼・挑戦・謙虚」のもと、進路実現に向けて保護者と連携を図り生徒のよりよい進路を実現させる。
専門性等	・専門学科で学んだことが、迫ってきた進路選択にどう活かされるかを理解させる。進路指導部や担当者と協力して進路指導を実りあるものにする。
自尊意識等	・いのちの大切さや尊さについて学校という集団生活を通して理解を深めさせる。その上で授業や考査、行事を通して成功体験の一つでも多く積み重ねることで自尊感情を高めさせる。
人権意識等	・日常の生活から、自己理解と他者理解の重要性を認識させ、思いやりのある言動をさらに増やしていく。
地域連携	・学校はもちろん個々の生徒が地域との関りを大切にし、挨拶の習慣を徹底し、地域の一員としての自覚を促す。さらに、就職希望者などを中心に地域の現状と課題を把握し、理解を深めさせる。
特別支援教育	・個別の支援計画を作成し、学年団の共通理解を図る。また、進路決定をするうえで保護者と情報共有し、関係機関と連携を図る。
職員の協働	・担任と副担任、学科、進路指導部との協働を図り、複数の視点による学年運営・クラス運営を図る。
教職員の資質	・学年団で情報の共有をおこない、幅広い視点から学年・クラス運営に携わる。また、各種セミナーや研究会に参加し、情報の共有化を図る。
本校の魅力	・学年通信を毎月発行し、情報発信に努める。また行事の様子はホームページやブログも活用する。
本校の将来像	・地域に根ざした農業の専門高校として、地域の現状と課題を把握し、近い将来地域を支える人材を育てることができ学校を目指す。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携し生徒の進路実現に向けて取り組むことができ98.8%の生徒が進路実現を果たすことができた。 ・最高学年として、あらゆる行事に積極的に取り組む生徒のサポートができた。 ・各種資格取得や農業クラブ県大会・全国大会に出場し優秀な成績を修める生徒が複数いた。 ・課題研究では地域と連携し、農業の学びを深化させることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学年としてのHPやブログの活用。 ・他者理解に欠ける言動が一部女子に見られ、思いやりの大切さの浸透不足。 ・進路実現したあとのモチベーション低下がみられ、ゴールではなくスタートであるという意識づけの不足。

10 生産ビジネス科

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・農業を通して知識や技能を身に付け、生きる力を養い地域産業人を養成する。ふるさとの自然や文化を愛し、地域の課題の解決に参画する態度を養う。
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・学科の専門教科学習とその他教科、丹波学や課題研究などが結びつき、専門性を向上させる。スマート農業やトレーサビリティ等を意識した学習を通して社会の変化を柔軟に捉え、それに対応した知識と技術を身につける。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ブランドに触れるため、自ら家畜の飼育や作物の栽培に取り組む。 ・地域ブランドを生産しているプライドを持たせて、自尊意識とふるさと意識の醸成をはかる。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年との実習により、声掛け・指示の仕方などを学び、他者尊重の精神と協調性、責任感を育成する。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントや各種講演会などにも積極的に参加する。地域ブランドの栽培・飼育を行う中で関係機関との連携を深める。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状態を把握し、教員で情報を共有し、生徒個々の特性を理解したうえで、個別の対応を行いインクルーシブ教育の推進を図る。生徒個々を注視できるように専攻別少人数制の展開を行う。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学科として長期目標を設定し、組織としての活動を活性化させる。 ・週一回の学科会により、業務進行状況や課題、生徒情報などを共有する。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・校外でイベントを企画運営することで、計画や運営の機会を増やし、生徒と共に物事を作り上げていく力を育成する。 ・積極的な研修会や研究会への参加を促し、0から1を生み出す力と1を10に伸ばす力を身につける
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・画像動画など視覚情報を通して本校本科では何ができ、何を学び、どう成長するのかを分かりやすく伝える。 ・HPの更新頻度を増やし、イベント参加時のPRを積極的に行う。
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一次産業を担う人材育成を主軸とし、地域に還元できる地域産業人を育成するための学科体系を形成する。 ・本校本科で学んだ生徒が地域を支え、本校を支える人材育成を目指す。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科職員と各学年担任が情報共有をはかりながら生徒個々にあった指導を行った。 ・新基準の評価方法を導入した授業を行う中で生徒自身が栽培や飼育している動植物に対しての責任を持ち行動する力を伸ばすことができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムに対応した修行の展開をさらなる深化。 ・ICTを導入した実験実習のさらなる展開についての研鑽。

11 食品ビジネス科

基本方針	・食品加工、食品製造、品質管理の技術を軸に栽培、販売の基礎を学習し、6次産業に対応した人材の育成。
専門性等	・食品の製造や流通・食品衛生・食品化学の専門性を生かした実験・実習を実施。
自尊意識等	・地域交流や小学生との交流授業を通して、生徒たちが地域での活動から学ぶ力や自己有用感を高めたり、自尊心を高めたりすることができ、働く力の育成につながる。生徒各自の目標達成のための取り組みを通して、自己を理解し向上に努める。
人権意識等	・実験・実習を通して互いに協力し、思いやりを持って自他を高める態度を身に付けさせる。
地域連携	・地域企業等と協力し、地域食材を使用した商品開発をし、地域とのつながりを強くする。 ・地元イベントに販売実習のかたちで参加することにより、地域とのつながりを強くする。
特別支援教育	・特別支援推進委員会や担任と連携し、支援を要する生徒の共通理解及びわかりやすい授業実習に取り組む。
職員の協働	・科の目標に対して科内の共通理解を図る。また、他科をはじめ、部、学年との連携を深める。
教職員の資質	・食品に関する講習会等に積極的に参加し、個人の能力の向上を図るだけでなく、その知識の共有に努める。
本校の魅力	・日常の実習などの情報をホームページで発信するだけでなく、原材料栽培から加工における校内製品の良さ（他には負けない商品）をイベントなどでアピールする。
本校の将来像	・地域に必要とされるためにも、学科の目標でもある6次産業化に向けた人材の育成はもとより、商品の販売についてインターネット販売など全国に、本校の加工品を販売できる販売網の確立。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒井小学校児童との交流により本校生徒の自己有用感が高まった。 ・地域企業等と協力し、地域食材を使用した商品開発をし、地域とのつながりができた。 ・定期的に科会を開き、科内での共通理解を図ることができた。 ・日常の実習の様子をSNSで発信することができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による販売実習機会の減少。 ・食品関係の外部講師を招き生徒への出前授業を実施。 ・科単位での企業見学の実施。

12 生活ビジネス科

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域から学び 学びを地域に」をもとに「農」・「食」・「福祉」を体験的に学び、地域を創る生徒を育てる。
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全を第一として、安心・安全な生産物の提供を目指す。 ・座学と実習の学びを連携し専門性の学びに深みを持たせる。 ・生徒が誇りを持つ農場運営を行い、農業を学んで成長する指導に取り組む。
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの成功体験をより多く構築させ、自尊意識を高める。 ・学年を横断した時間外総合実習の配当をおこない、上級学年が下級学年の指導をおこない、自尊意識を高める。
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> ・実習などで仲間と協力して取り組むことで協調性を養う。 ・交流活動や連携授業を通して社会性・他者理解する力を養う。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「学んで良かった」「入学したい」「地域に愛される」を実現できるように学習内容を実践する。 ・こども園との交流活動や地域での販売活動を通じ地域連携を行う。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学年と科の連携を深めて情報共有をおこない、個々の生徒理解を図る。 ・支援学校との連携を通じて、特別支援教育の充実を図る。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学科の目標に対して共通認識を図り、課題解決に努める。 ・学科長会などを通じて、他科との情報交換・共有を図る。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会などに参加して個々の能力の向上を図る。その情報や技術を職員間で共有し、生徒に還元していく。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組みなどをHPに掲載し、学びの様子を発信する。 ・生産物を通して学科の魅力を発信する。
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・以上の取り組みより、他校や他科との差別化を図る。 ・在校生が学びに満足する、卒業生が学んでよかった、中学生が学びたいと思える学科の在り方を考える。 ・類型学習の成果と課題を検証する。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容や学科の取り組みをHP（ブログ）で情報発信できた。 ・類型学習（福祉と農業類型、食と農業類型）を2年生から実施することにより、専門性の高い教育活動ができた。 ・生活ビジネス科専用の農場施設（草花、施設野菜）になり、責任を持って実習できた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流活動や外部講師による授業、職員の講習会などへの参加への代替対応の工夫。 ・類型学習での取り組みと進路実現との整合性。 ・生徒募集（保護者・受験生のニーズに合った学科運営）